

今、音楽科で目指したい授業

～ 大切にしたい3つのこと ～

音楽に対する感性を育てる!

基礎的・基本的な技能を身に付けること（習得）と、それを生かして音楽を工夫し思い通りになったか判断していく活動（活用）を確実に組み入れていきましょう。

「どう表現したいのか。自分のイメージ通りに表現するにはどうすればいいのか。自分のイメージ通りに演奏できたか。」といった「音楽の内容について思考して判断する時間」を学習過程に位置付けるようにしましょう。

共通事項を確実に押さえる!

指導計画を作る段階で、「この題材で**共通事項**の何を教えるのか明確にし、さらに、どの場面でどのように指導するのか、具体的に**して**授業に臨みましょう。

一単位時間の授業で何を教え、何を評価するのか明確にして授業に臨みましょう。

※別紙 具体例

共通事項（小学校低学年）

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

「音楽づくり(小)、創作(中)」、「鑑賞領域」の充実を!

音楽づくり（小）、創作（中）、鑑賞の授業にさらに積極的に取り組みましょう。

年間計画に位置付け、確実に実施していきましょう。

※別紙

1 「せいじゃの行進」の題材の評価規準の例（表現領域のみ）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
評価規準の設定例	・友達の楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	・互いの楽器の音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図を持っている。	・友達の楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて重奏や合奏をしている。
具体的な例	・他のパートのリコーダーの旋律を聴き、かけあいの部分はかけあいになるように、音の重なりのところは美しい和音になるようにする学習に進んで取り組もうとしている。	・①と②のパートのかけあいの部分、音の重なり部分を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、かけあいの部分ではそれぞれのパートを対等の関係で演奏すること、音が重なっているところは主旋律を目立たせるように演奏することについて思いや意図を持っている。	・他のパートのリコーダーの音を聴きながら、タンギングや息の入れ方に気をつけて、音を合わせて重奏や合奏をしている。

★「評価規準の設定例」は、国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」からの抜粋です。これはあくまでも例なので、これを参考にするとき実際に題材で扱う楽曲の特徴をよく分析して具体的にすることで、よりねらいが明確になってきます。

2 本時の評価の内容と方法の例

1 小節から5小節までがかけあいになっていることを聴き取っているか、展開前段で挙手及びワークシートで把握する。

①と②のパートの1～5小節を同じ強さやアーティキュレーションで演奏することを意図して、思いを持って演奏しているか、グループ練習の際にペアで重奏させて把握する。